

すそみ点滅交差点

春來のひと味
草餅を手作りで



「わあ、たくさん摘んだはずのヨモギが半分になってしまいましたね」。草餅を美しい若草色に仕上げるため、摘んだヨモギの枯れた葉や土を取り除くと、だいたい半量ぐらいになるそうです。草餅は上新粉とヨモギを混ぜてこねあわせて作る素朴なお菓子です。出来たてをきな粉をたっぷりとかけていただきます。みなさんも春來のひと味を作ってみてください。
上野節子(小沢地区)



田んぼの土手でヨモギを摘みました

筑波山麓のすそみの里にも早春がやってきました。田んぼの畦道を歩いてみると、タンポポにフキノトウ、セリやヨモギなどが顔を出しています。古くからヨモギはひな祭りのひしもちを作るのにも欠かせないもので、草餅や草だんごに使われ「もちぐさ」とも呼ばれています。今回は春の香りいっぱいヨモギを摘んで、草餅を作りたいと思い、地元のお母さんに教えてもらいました。

草餅の作り方

1. 上新粉を熱湯でこね、手で指の形がつくようにちぎり蒸し器に入れて20〜30分蒸す。
2. ヨモギはきれいに洗って重曹を少々入れてゆでる
3. ヨモギを水でさらした後、包丁で細かくたたき、すりばちの中ですりつぶす。
4. 蒸した上新粉とあわせ、よくこね合わせてから丸める。食べる時にきな粉をかける。



普門寺のお遍路さん

神郡の普門寺には、毎年4月3日にお遍路さんがやってきました。30人くらいは見えるでしょうか。参道の桜が満開の頃です。並木の下を歩くお坊様、白装束のお遍路さんたちの姿は一幅の絵のような光景です。

巡拝は、市内松塚の東福寺が江戸時代より行っている由緒あるものです。3月30日から4月8日までの10日間に、四国八十八ヶ所にならって「東福寺桜川八十八ヶ所」を巡拝します。当日、お遍路さんの到着は、10時半過ぎの予定。参拝後は、地区の皆さんの心のこもったお接待が行われます。たくさんのお菓子、手作りの料理がふるまわれます。

東福寺の皆様はお礼にご詠歌となえて下さり、ありがたいお米とお札を置いていってください。

神郡地区に限りません。お接待や見学希望の方は、どなたでもできますので、ぜひ参加してください。

遮那ひろみ(神郡地区)



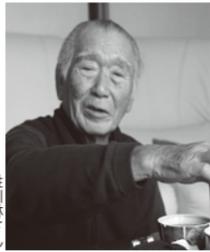
満開の桜のなかを歩くお遍路さん

藍染め18年、紺屋のお仕事つれづれに

白井の鮭川林さん

江戸時代の北条、真壁など筑波山麓一帯は真綿で繁栄しました。街周辺では、問屋、紺屋、機織など様々な商いが行われました。藍染めは真綿になくはならないものでした。

木綿の着物や野良着を染めるのに欠かせない藍。今回は山麓で昭和45年頃まで紺屋をしていた白井の鮭川林さん(85歳)を訪ねました。真壁で生まれ育った



林さん。江戸時代からつづく白井の紺屋に27歳で婿養子に入り、以

来18年、看板を下ろすまでの間「藍染め」の仕事をされていたそうです。藍染の基本となるのは、藍草を栽培し、染料の原料となる藍玉をつくること。「藍染は、藍玉をつくるのが一番大切なんだな、それがうまくできたら失敗しない」と語る林さん。まずはその肝心の藍玉づくりの工程から伺いました。

●藍玉づくり

- ・種まき(春)―芽が出たら田植えのように2〜3本ずつ定植する
- ・収穫、乾燥(夏)―根元を縛って竿に干して乾燥させる
- ・発酵(9月頃)

乾燥した藍草を2〜3cm程に切り、作業小屋の中で山積みにし、少しずつ水をかけては返しながら50〜60℃を保つように発酵させる。(2〜3ヶ月この作業を繰り返す)型抜き(11月頃)―十分に発酵させた藍を杵と臼でついてつぶし、それを一升枡より少し大きめの箱につめ型抜きすると、1貫目約4kgの藍玉ができる。積んで乾燥させた藍玉は半分くらいの重さになる。こうして出来上がった藍玉は何年も保存がきくので、必要に応じて蔵から出し使します。原料が出来たら次は「染め」。

●藍染め

ここで登場するのが藍甕。甕は陶製で、土間に一段高く盛った土に、1坪あたり甕4本が1組となるようすっぽり埋め込まれています。鮭川さん宅の作業場には10組の藍甕が、儀良く並んでいたそうです。藍玉を砕いて粉にし、藍甕に入れる(1甕に藍玉4個)。甕の半分くらい水を入れ、フスマ(小麦の皮

●編集を終えて……

日々、様々な暮らしや活動が続く筑波山麓。その中でもとりわけ素敵な春の「すそみ」にお出かけください。

すそみサポーター

敬称略

つくば市筑波	筑波山神社
つくば市神郡	榎戸和夫
つくば市神郡	肥田久子
つくば市神郡	普門寺
つくば市神郡	桜水会(豊浦)
筑波大学	出口正義
つくば市小田(有)武平ファーム	大曽根京子
東京都	石井香子

※協賛会員「すそみサポーター」募集中心! 1口3000円

この度の震災で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。この「すそみろく」第19号は3月10日時点で編集したものを印刷してお届けしております。

デザイン・小沢陽子(漆所地区)



私たちが応援しています!

第19号

すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第19号(平成23年3月25日)
発行・すそみろく編集委員会

TEL029-866-1122(田井の里地域づくり愛好会・森田)
TEL029-863-5151(NPO法人つくば環境フォーラム・田中)

